

グループもみじ

法人理念

「ひとりの人を大切にした まごころ介護」



「ひとりの人の可能性を信じる まごころ介護」



特集!

**104歳のマキコさん
故郷で弟さんと街歩き**

マキコさん～思い出の場所めぐりin小諸～

6月14日（火）ポツポツと降っていた雨も長谷川家を出発する頃には上がり絶好のお出かけ日和。

「これからどこに行くの？」と不安そうなマキコさん。助手席の孫嫁ゆかりさんに「あんたもいくの？」

「実はこれから小諸へ行くんですよ」とお伝えすると増々不安そうなマキコさん。

「小諸で何かあったの？」「私は何も知らないよ。一体何が目的なの？」と尋ねるマキコさんに「懐古園を見たいので案内してほしいのです。白鶴橋の写真も撮りたいのです。」多少納得されたのか、故郷の話が始まり旅のスタートです。どんな一日になったでしょう。



「ひさしぶりだね。元気だった？
ちょっと痩せたね。」



弟の国治さんの車でドライブ
手を取って再会を喜びます



小諸駅をバックに記念撮影
「ここも変わったね。きれいになったね。」



白鶴橋を渡ってご機嫌のマキコさん
まだまだ足腰大丈夫です。

お蕎麦屋さんで昼食タイム



店員さん「おばあさんはいくつですか？」

ゆかりさん「もうすぐ105才です」

店員さん「えーうそ！！」

厨房から皆さん飛び出してきてマキコさんに質問攻め。

「耳は聞こえるの？」「ハイしっかり聞こえますよ」とゆかりさん。煮込みうどんとごはんを美味しそうに召し上がる様子を見て「凄いね。お箸でしっかり食べているよ。」と驚きの声。

常連さんもマキコさんの食べっぷりにびっくり！

帰り際お客さんに「おばあちゃんががんばってね」と声を掛けられ「ありがとう」と答えたマキコさん。同行の職員に「あのおじいさんにごんばってって言われたけど何をがんばればいいのかのさだろうね。」と笑っておられました。

「昔はね外から帰ってくるとハタキを持ってきてこれでホコりはらってから家の中へ入れて言うし、竹ぼうき持たされて家の周りの蜘蛛の巣払っておいでって言われましたよ、きれい好きな人でね。」と姪っ子さんが語ってくれました。

別れ際マキコさんが唄いだしました。18番、関の五本松。弟さんも一緒に「関の五本松～ドッコイショ」と合唱。帰りの車内「今どこへいつてきたの？」「小諸の懐古園です」「誰かいたの？」「弟さんにお会いしてきましたよ」「え？弟と？知らないよ・・・国治来たの？」「全然覚えてないよ。ところで前にいる女の人誰だね？」「ゆかりさんですよ」「えっゆかちゃんかね？どこの娘さんかと思ったよ」車中は大笑い。夜には「なんだか疲れたよ・・・」と言われぐっすり夢の中。懐かしい顔ぶれが勢揃いの夢を見ていたのかもしれないね。



「長谷川昌蔵氏（マキコさんの御舅）」の石塔を囲み記念撮影。右：職員岡澤

宅老所さくら

(認知症対応型通所介護)

〒380-0043 長野市吉田 5-13-7

電話 026-244-7104

なじみのある地域の中で安心の暮らしをお手伝い

親戚の家に遊びに来たような懐かしい居場所。ガーデンカフェ併設。地域の中の交流スペースとして世代を超えた居場所です。ひまわりバザーも開催します。ご家族の支援にも力をいれた、地域の中の第二の我が家。



家族と共に～大切な時間を寄り添う



夕やけ小やけのお祭りにて。左下：ミサオさん
左上：娘さん 右上：ミサオさんのご主人

■ 体調の変化から入院へ

昨年 11 月ごろ、ミサオさんが体調を崩されて食事ほとんど箸を付けないこともあり心配な状態でした。下痢が続いて、脱水で体力低下もありご家族と相談し、かかりつけ医の紹介で専門病院を受診し、入院をすることとなりました。

入院中口からの食事はほとんど食べられない状態で、身体も細くなり、眼窩が窪み言葉もほとんどなくなったお姿に、見舞う職員もつらく複雑でした。

大腸カメラ検査でも原因はつかめず病院からは退院の話がでます。自宅へ戻っても、高齢のご主人が今までのように介護することは負担が大きく、ご家族は施設入所も検討されました。

そんなご家族に夕やけ小やけでは、点滴は行わず自然な状態でミサオさんのケアをしていけること、さらにご本人の回復にはご家族の協力が必要なので一日一回はご家族に来て頂き、その時の様子によっては、一緒に泊まって下さるようお願いしました。

～はじめに～

病院では食事も採れず、あとひと月もたないかもしれないと告げられたミサオさん。それから 3 ヶ月今では自分でご飯を食べ、ご家族と日々心を通わせています。

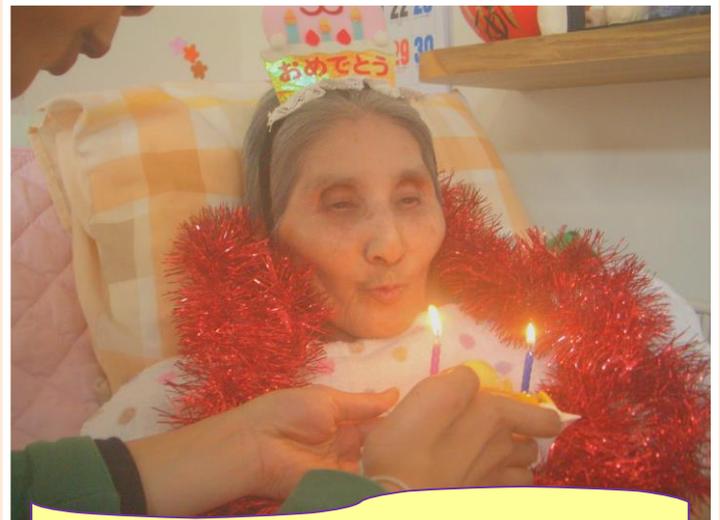
夕やけ小やけもミサオさんとご家族に寄り添い、可能性を信じてあきらめないケアを続けています。



4 月に退院し、ミサオさんが夕やけ小やけでの生活を始めました。少しずつ口から水分や食事が採れるようになり、ご主人や息子さん娘さんも朝・昼・夜と食事介助に来所され、娘さんはお仕事が休みの前日には、夜泊まってお母様と過ごされています。

残された日々を少しでも一緒に過ごしたいと、ご家族がひとつになってミサオさんを支えている。

そんなお姿を見ていると、ミサオさんが家族を団結させるためのきっかけ作りをしたようにも思えます。



退院してすぐのお誕生日
炎をご自分で吹き消すミサオさん

一年前のお花見「見てみて綺麗だよ〜。」
いつも優しいミサオさん



日に日に以前の元気を取り戻し、食事も召し上がり会話も増えてきました。もう少し落ち着いたら、自宅へ戻ることもご家族と相談しています。

元気になってきた分、移乗や入浴・おむつ交換時に、拒むような意思表示が出てくるようになり、慌てずゆっくり声かけしながら無理のない対応を職員は心がけています。



ご主人がミサオさんの食事介助をしている時のこと。
ミサオさんが自分の食事を「お父さん食べな〜。」と
ご主人にすすめます。

「そうかい。でもお母さんのだからいいよ。」と答える
ご主人。

互いに助け合い長く人生を共にしてきたご夫婦の何気
ないやり取りに愛情を感じる光景です。

病院とは違う自宅に近い雰囲気の中かで、ご家族・職
員の関わりも含めてミサオさんにとっての支えとなれ
るよう、夕やけ小やけでは知恵を出し合い、
これからも寄り添います。

保母さんとして働いていたミサオさん。
各地の保育所で慕われる先生でした。

小規模ケアホーム 夕やけ小やけ

〒390-0825 松本市並柳一丁目 3-18
電話 0263-87-2760

気軽に「ひとつきら寄ってきまっしょ」

ここは『通い』『訪問』『泊まり』機能を組み合
わせ、24 時間 365 日必要な方に寄り添う在宅
型介護の拠点。住み慣れた我が家での生活。
馴染みの人達との関係。これらは誰もが大切に
したいと思うもの。自分らしく暮らし続けていけ
るようにお支えする安心の場です。出会いから
看取りまで、自然な暮らしを継続できるようにサ
ポートしています。



木のぬくもり漂う開放的な空
間。明るく穏やかな環境です。





別れの時までずっと

ミネコさんとの出会いは8年前。「宅老所さくら」へ通いがスタートでした。外出したい様子のミネコさんに、職員も寄り添い宅老所の周りを気のすむまで歩き続けたこともありました。次第に「今日はあのお姉ちゃんいないの」と気になる職員が休みの時はミネコさんが心配してくださることもありました。

ご家族の仕事の都合もあり、利用時間が柔軟で泊りの機能も併せ持つ、小規模多機能型機能の「宅老所みんなのあもり」へ移られることになりました。

朝8時頃職員がお迎えに行くと、ご家族がミネコさんの朝食と身支度を済ませて待っていてくださいます。日中はみんなのあもりで過ごし、夕方お帰りになるという生活で、夕食や夜間の介護はご家族が熱心に支えておいででした。

いつも優しくほほ笑むミネコさん
大好きな公園で

お昼ご飯の食材の下ごしらえを手伝って下さり、干し柿にする段ボール箱の柿をあつという間にむいて皆をびっくりさせたこともあります。長野マラソンに息子さんが出場するので、沿道に出て応援するのも楽しみのひとつでした。

「宅老所みんなのあもり」も約6年に渡りミネコさんの生活を支えてきましたが、今年の4月に体調を崩され皆に見守られながらご永眠されました。在宅生活を支え続けたご家族は本当に大変だったと思います。ご苦労されながらそばで支え続けたお姿は、私達にも痛いほどわかります。

ご家族から「大変な事もあったけれど、グループもみじと出会い、さくらとみんなのあもりの皆さんに支えてもらいながら最期まで母を見る事が出来て良かったです。」との言葉は私たちにとって何よりの励みです。ミネコさん沢山の思い出をありがとうございました。

息子さんが走る長野マラソン
沿道で応援しました



宅老所みんなのあもり 小規模多機能型居宅介護

〒380-0941 長野市安茂里葎ヶ淵 1861
電話 026-226-0903

通って・泊まって・訪ねてくれる【小規模で家庭的な個別の介護】

大切な家族と自宅で暮らしたい

あもりの特徴はケアの柔軟さ。発想力豊かなスタッフが家族とお年寄りが望む暮らしの継続を支えています。



夢があるから踏み出せる 走り出せ「たのまれ屋！」

福祉の分野でこんな事がしたい、あんな事がしてみたい！でも現実には目の前の仕事に追われて、余裕がないと言いつばかり。役に立ちたい。たのまれたい。思いは空回り。それが今の時代なのでしょう。誰もが自分の事で精一杯なのかもしれません。

困っている人がいないのか？

困っているけど頼めないだけなのか？

誰に頼めばいいのか？

頼み方が分からないのか？

昔は地域の住民どうして頼んだり、頼まれたりでお互い様で当たり前の光景とそんな支え合いが今では少なくなってしまった。ある時自分に問いかけた。「自分はたのまれ事にすべて応える気持ちでいるか？」「頼まれるような人格だろうか？」

「頼まれる事は大切だが頼む勇気をもっているか？」

これは自分が成長しなければただの夢で終わってしまうと。これはボランティアではない、一つの地域事業モデルにしていかなければいけない。夢いちもんめは地域に向け、その存在を発信している。逆転の発想「頼まれるためには、まず頼め。」

「畑をやるなら、この本を参考にしな！」とをもって来て下さる。「少なからボランティアで手伝ってあげるよ」と毎日食器を洗ってくださる。

「パート募集していたから、薦めといたよ」とご紹介くださる。皆さんいつもありがとうございます。感謝しています。これからは一つひとつ丁寧に地域の方と向き合い、お役に立っていくことです。

(文：田中題)

「たのまれ屋」名前の由来

たのまれ屋を命名して下さったのは、夢いちもんめに通っているトモコさん。トモコさんの口癖が「わたしはね～昔からたのまれ仕事ばかりでたのまれ屋さん」その時、ピピッと「それ頂いていいですか？」「いいよ」「トモコさん、たのまれ屋って言うても、断った事もあるでしょ？」「無いよ！」「え～ホントに？」「そうそう、断っても、やってって頼みに来る。そう、何でもやったよ」今でも頼めば何でも手伝ってくださいます。時々、変な事たのむとお叱りを受けますが…。ってことで、名付け親のお話でした。

宅幼老所夢いちもんめ

認知症対応型通所介護

介護予防認知症対応型通所介護

〒390-0828 松本市庄内1丁目7-17

電話 0263-26-1680

なじみのある地域の中で安心の暮らしをお手伝い

木造民家で家庭的な雰囲気をお手伝いした小規模な宅老所です。

住み慣れた場所で暮らし続ける為に、お一人お一人の生き方や想いを理解し、不安をとり除き、やりがいや、楽しみを一緒に探しています。

そして、地域と共に安心して生活出来る地域環境づくりを目指しています。



お年寄りもスタッフも少人数。温かく落ち着いた環境です。

綺麗に活けられた花々が皆を出迎えます。



出会いから最期まで

グループもみじは、認知症の方の暮らしを支え続けて16年。

出会いの時から、看取りまで寄り添い続けるパートナーとして

ご本人・ご家族を中心とした暮らしのお手伝いをさせていただきます。

命の慈しみと共に今を生きる

介護保険だけに限らず、必要とされることに柔軟に対応し、

地域の中のもう一つの我が家として個別サービスを提供し続けています。

認知症のお年寄りにはどのように接していけばいいのだろう…？

認知症のお年寄りを地域で支えるために何が必要だろう…？

自分の親は自宅で看取りたいがどうしたら…？

そんなお悩みありませんか。

グループもみじでは、悩みや疑問を解決し、安心してお年寄りと寄り添って頂けるよう、認知症ケアや地域人権等についての講演や施設研修のご依頼を随時受け付けております。ご希望に沿う講演や研修に柔軟に対応致します。詳細は事務局までお問い合わせください。

電話 026-227-4425 (担当：山崎・田中)

介護でお困りの事などお気軽にお問い合わせください。見学も随時受け付けております。

宅老所みんなのあもり	026-226-0903	宅老所さくら	026-244-7104
夕やけ小やけ	0263-87-2760	宅幼老所夢いちもんめ	0263-26-1680
居宅介護支援青もみじ	0263-87-1026		

NPO法人グループもみじ 〒380-0941 長野県長野市葎ヶ淵 1861

電話 026-227-4425 FAX 026-217-7764 ホームページ [グループもみじ](#) [検索](#)

